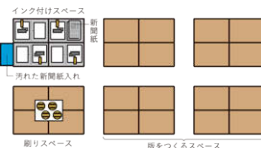


朱書編 指導解説編

題材ごとの材料の準備や具体的な指導のポイントを丁寧に解説！

例えば朱書編では

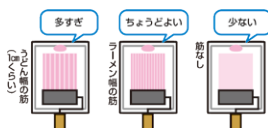
場の設定例



板書例



指導のポイント例

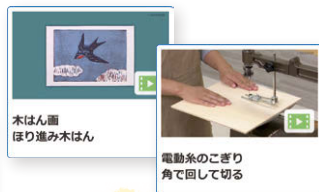


授業の準備や指導の手立てに迷っている

用具の指導に自信がない

指導者用デジタル教材 DVD

用具の使い方や技法を動画で詳しく説明！活動への興味を引き出す導入動画も収録。



先生をお助けします



鑑賞を充実させたい

美術作品や身近な造形を気軽に鑑賞できるツール！

日文の教師用指導書



その他のコンテンツはこちら

大判
掲示資料



アート・カード

日文 教授用資料

図工のお悩み相談室

No.
2

授業の準備について

今回のお悩み

—— 回答者 ——

辻 政博 先生

西尾正寛 先生

名達英詔 先生

丁子かおる 先生

(掲載順)

図工のお悩み相談室 No.02

日文 教授用資料

令和3年(2021年)3月20日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL: 06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33546

デザイン・イラストレーション: やまねりょうこ

日本文教出版 株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL: 06-6692-1261 FAX: 06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL: 03-3389-4611 FAX: 03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL: 092-531-7696 FAX: 092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
TEL: 052-979-7260 FAX: 052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL: 011-764-1201 FAX: 011-764-0690

本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報
詳しくはWebへ！

日文 検索



未来をになう子どもたちへ
日本文教出版

※本冊子掲載QRコードのリンク先コンテンツは予告なく変更または削除する場合があります。
※QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

『図工のお悩み相談室』は、
悩める先生が自分なりの解決の糸口を見付けられるように、
回答者と共に考えていく場です。

今回のお悩みテーマは授業の準備についてです。
図工の年間指導計画に悩む先生も、
材料集めが難しいと感じている先生も
回答を読みながら、
「子どもの資質・能力を育む授業」
「子どもだけでなく先生もワクワクする授業」について
一緒に考えていきましょう。

『図工のお悩み相談室』では、
今後も定期的に図工ならではのテーマを取り上げます。
日本文教出版は子どもに寄り添う図工の授業を、
先生と共に考えていきます。

先生からひと言

回答者紹介



帝京大学
教授

辻 政博 先生

Like a Rolling Stone



畿央大学
教授

西尾正寛 先生

時に出会う幸せな瞬間に期待して
毎日を過ごします



十文字学園女子大学
教授

名達英詔 先生

苦手なことってあるよね
でも好きだったりして



和歌山大学
准教授

丁子かおる 先生

小さくても子どもはみんな
大人や社会にパワーをくれている！

※本冊子は日文ウェブサイト「図工のお悩み相談室」の内容を
一部修正のうえ、掲載しています。



教科書に載っている題材は 当該学年で全題材やらないとだめなのですか。

大切なのは実施する題材数ではなく、
1年間を通して求める資質・能力が形成されるかどうかです。

辻 政博 先生



結論から言うと、1年間で全題材を実践する必要はありません。教科書の内容は、学習指導要領に基づいて満遍なく網羅され、どの地域の実態にも対応できるように編集されています。学校の教育目標や、学年や学級の実態に合わせて題材を選択し、1年間のカリキュラムを設定しましょう。

考えるべきなのは、「どの題材を、いくつ実施したか」ではなく、「1年間のトータルとして、求める資質・能力が形成されたか否か」です。学習指導要領の目標に示される三つの資質・能力が、個々の題材における活動を通して総合的に形成されたか否か、が問題となります。

カリキュラムの編成では、A表現、B鑑賞、〔共通事項〕等の内容を押さえながら計画します。造形遊びをする活動、絵や立体、工作に表す活動、鑑賞する活動が不均衡に陥らないようにすることが、上記の資質・能力

を形成する上で重要なポイントです。特に、工作に表す活動の授業時数は、絵や立体に表す活動の授業時数とおおよそ等しくなるように計画することが学習指導要領で定められています^{*1}。例えば、絵に表す活動ばかりでカリキュラムが構成されていると、子どもが経験すべき活動の多様性が限定されてしまい、十分な資質・能力の形成が損なわれてしまう事態に陥ることも予想されます。

1年間の限られた授業時数の中で、個々の題材にかかる時間数は、その学年、その学級の児童の現在の実態と、今後どのように育っていったほしいのか、に大きく関わる問題です。教科書に掲載されたそれぞれの分野の題材群の中から、育てたい力に応じた題材を選択することが大切です。

*1…「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編」 P143



年間指導計画を立てるポイントを教えてください。

厳密な計画よりも、時々の子どもの期待や実態に柔軟に応じることができる計画を心がけましょう。

西尾正寛 先生



図画工作科における“よい”年間指導計画とは、1年間の学習を通して、子どもの表現や鑑賞に関わる資質・能力をバランスよく育成するものです。図画工作科の題材には強い系統性はないので、児童や学級の状況に応じた、柔らかな年間指導計画を作成することができます。学習指導要領では、年間指導計画を立てるための配慮事項が示されています^{*1}。加えて、図画工作科の学習には内容ごとに特徴があります。絵や立体、工作に表す活動では児童がテーマや目的と出会い、表したいことを初めに見付けて活動する学習と、材料や用具の新しい扱い方と出会い、活動しながら表したいことを見付ける学習があります。鑑賞する活動では互いの作品を鑑賞し合う学習や、鑑賞した成果を生かして表現の活動につなげる学習などがあります。造形遊びをする活動は、天気に左右されることもあります。こうした

題材の特性を踏まえ、様々なことに配慮しながら厳密な計画をつくったとしても、その成果は数か月後まで分からないものです。そこで、学習を進めながら年間指導計画を調整するという考え方ができます。3学期制を念頭に考えれば、4月当初の児童の状況を踏まえて1学期の計画を立て実施します。夏休みには1学期に十分に学べたことと学び足りないことを整理し、補えるように調整した2学期の計画を立てます。冬休みには1学期と2学期をまとめて振り返り、1年間の学習のバランスがよくなるように計画を調整し実行します。時には児童と共に「それまでの図画工作の学習で、どんな力を付けることができたか」を振り返り、その後の題材と一緒に選ぶ活動を実施してもよいでしょう。

^{*1}…学習指導要領 第7節 図画工作「第3 指導計画と内容の取扱い」



材料の準備が悩みの種です。 材料を検討する際のポイントを知りたいです。

先生自らが材料の魅力を実感し、授業の構想を膨らますことが大切です。

名達英詔 先生



図画工作で用いられる材料の多くは、私たちの生活の中で親しみのある「身近材」と呼ばれるものです。ですから、授業実施前から材料を集めておくことがカギとなります。

集め方としては、子どもたちに持ち寄ってもらう、ご家庭や地域の皆さんにお声がけしてみる、教材屋さんにご相談してみる、学校で手に入る草木や物品を集める、教師自身が収集・製作する、子どもと共に製作する、といったことが考えられます。

ちなみに地域の皆さんへのお声がけとは、例えば近隣の木材屋さんに連絡して端材を譲っていただいたり、農家の方から藁を分けていただいたりといったイメージです。気軽に電話してみるのもよいでしょう。考えてみるといろいろな可能性が広がりますね。

次に、こうして材料が集まってくれば、それらをストッ

クする場所も検討したいところです。常設、臨時、危険なものの管理といったことも考えつつ、子ども自らが活用できる場所の設定もよいかもしれません。

そして何より大切なこと。それは、そうした材料を用いる魅力を実感するための教材研究です。実際に材料を手にし、使い勝手や使い心地を味わうことで授業の構想も膨らみますし、教師の思惑を超えて広がる子どもの感覚や発想の豊かさにも気付くことでしょう。どうぞ、教材研究を楽しみながら、子どもとの時間を創っていきましょう。





生活経験の差が大きい1年生の子どもたちに、
どのような活動を提案すればよいでしょうか。

子どもたちが安心して表現できるように、
使い慣れた材料や用具での短時間の活動を意識しましょう。

丁子かおる 先生



春の接続期の時期、1年生は、慣れない小学校生活を緊張しながら頑張っている。まずは、子どもたちが1〜2時間で表現できる活動から始めます。使い慣れたパスやハサミ、折り紙などの用具や材料、休み時間でも継続して遊べる油粘土や紙類の使用を意識して、子どもが安心して表せる活動を大切にしましょう。好きなものや思いを絵や粘土などに表していくこと、それを教師や友だちと言葉でも話したり認められたりすることで、子どもたちが安心して小学校生活を過ごしていく助けになります。

ただし、**園によって子どもたちの造形経験は様々なで、基本的な用具の扱いなどの指導は一斉に行いつつも、学習活動の中で子どもたちそれぞれに材料や用具の経験を尋ねるようにしましょう。**一人一人の子どもの活動の姿を丁寧に見て、必要に応じて個別の支援を

行っていきます。

その後、学校生活に少し落ち着いてきた時期には、造形遊びで手や体全体の感覚を働かせてダイナミックに遊んだり材料を試したりする活動と、じっくり絵や立体、工作に表す活動をバランスよく行っていきます。ダイナミックに遊んだりじっくりと表す経験の中で、子どもたちは、気持ちがすっきりして落ち着いたり、友だちと関わったりしていくきっかけにもなります。

子どもたちが幼児教育で培った小さな自信をつなぐためにも、子どもたち一人一人の声を聞きながら、子どもたちの好きなことや興味を大切に楽しい図工を心がけてください。



お手本は、どれくらいの物を準備したり、
見せたりすればいいのでしょうか。

発想や構想を広げられるように複数の例を提示できるとよいでしょう。

西尾正寛 先生



「お手本」は、そのものを真似るために参考にするものではなく、児童が自分の目的を決める、つまり発想や構想することや技能を働かせることに役立つものである必要があります。それには、児童が選べるように複数の例を見せることです。

○**絵や立体に表す活動**：例えば、生活の中から表したいことを見つけて表す活動の場合、劇的な場面だけではなく、穏やかで静的な場面を表した参考作品も用意できるといいでしょう。材料や用具との出会いをきっかけに表す活動では、具象的な情景を表す例と、形や色そのもののよさなどを抽象的に表す例を共に紹介することが考えられます。

○**工作に表す活動**：大まかな意図や用途を実現する参考作品だけでなく、仕組みそのもの、仕組みの活用の仕方を複数紹介することが考えられます。いずれも「自

分の思いに合う方法が見付かるかな」といった問いかけと合わせて紹介することで役立つことになります。

○**造形遊びをする活動**：材料や場所への関わり方を手本として示すことが考えられます。その場合、具体的に何かをつくらないことが大切です。材料を並べたり積んだりするなど操作して見せるに留め、児童が「これからどうなるんだろう」と期待し始めるタイミングで、「この後どうしてみたい？」と児童に問いかけ、発想や構想することを促します。

○**材料や用具の指導**：安全指導では、手や体の感覚を働かせて使うということを、先生自身が示すようにしましょう。材料や用具で困っている児童には必ず「どうしたかったの？」と問いかけ、先生が少しやってみていい？」と確認し、できれば身振り手振りのお手本を見せ、実際には児童がするというようにしたいです。